

北欧

福祉と教育

# 街歩き 2012 冬 オーフスの誇り

写真・文= 藺部英夫  
(全障研事務局長)



by Kinbe & Ryo



ロックが俺たちの仕事だ！  
音楽活動が中心というワークショップ  
（作業所）を訪ねた。18歳から55歳  
までの20人が利用している。ドラムの  
ラーシーは自閉症だ。なかまたちと音楽  
を楽しんでいるときは積極的だとい  
う。素敵なボーカルの彼女は、精神障  
害がある。そしてベースのダニーは補  
聴器を付けていた。

「懐メロは大喝采さ。日本でのコン  
サートは最高だった。去年はオーフス  
で大震災支援のコンサートもしたよ」  
夕方、ダニーのお宅を訪問した。ダ  
ニーは43歳。妻のギッテさんも同じワ  
ークセンターで活動している。  
「排除しない」は当然だ。障害があれ  
ば、それを含めて人生を充実して生き  
られるよう、さまざまな支援がある。  
決定的なことは、それをなし得る確か  
な所得保障があることだ。（次々頁へ）



二人の住まい



ダニーとギッテさんご夫妻

特別学校の6年生たち



特別学校の低学年クラス



オーフス市庁舎



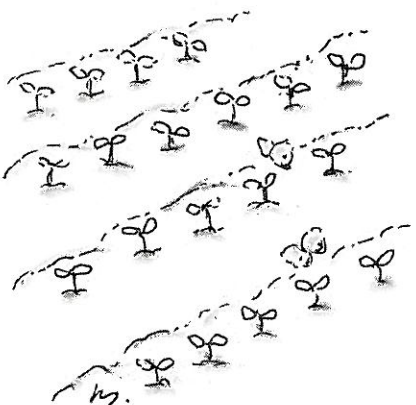
大壁画



「子どもたちは教育を受ける権利がある、大人は教育を保障する義務がある」と特別学校アラン校長が言う。「教育と子育て支援」で市の予算の半分を使う。高齢者で2割、障害者と失業対策で2割、残り環境や建築、市長室を運営してるよ」。市議会議員のハンスが笑った。

北欧・デンマークのユトランド半島、人口30万人のオーフス市。この国の民主主義は、長い歴史を経て、かちとられた。市庁舎は、世界的に有名な建築家アルネ・ヤコブセン。大壁画は、赤ん坊を抱く母を中心に、それを支える家族がいる。そのまわりの青年たちはオーフス大学で科学や芸術を学ぶ若者たちだという。

子どもを真ん中にして、過去と現在と未来の人びとが支えあう。それがこの街の思想、誇りなのだと思う。



いま、教育の意味が問われている。目に見える具体的な成果がないと、教育の意味がないと言われたりする。教育は「人格」の育成を図るということから、将来の社会的な経済活動に有用な「人材」を育成するということに、その目的が変えられようとしている。教育とはどのような行為なのか。教育とは何をもって成立するのか。今回の特集では、障害児教育の視点から、このことを考えてみたい。

【特集】

教えるユシムシム